

伊吹山にイヌワシが舞う

須藤一成 映像・写真展

親鳥

幼鳥

2020
7.9 (木) → 8.6 (木)

開館時間／9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日／月曜日・祝日の翌日

入館料／一般200円、小中学生100円

【講演会】

日時：7月26日(日) 午後1時30分から

テーマ：「伊吹山の守護神

～伊吹山のイヌワシ40年の記録～」

講師：動物写真家 須藤一成 氏

参加費：500円

募集：30名 (申込必要・先着順・電話にて)

場所：資料館講座室

米原市伊吹山文化資料館

〒521-0314 滋賀県米原市春照77 Tel/Fax0749-58-0252 <http://www.zb.ztv.ne.jp/mt.ibuki-m/>



イヌワシが舞う
資料館

幼鳥剥製

伊吹山にイヌワシが舞う

—須藤一成 映像・写真展—

伊吹山をはじめ1,000m級の山が連なる伊吹地域に1つがいのイヌワシが生息しています。2001年からの5年間に4回繁殖に成功して以来、14年ぶりに1羽の若ワシが巣立ちました。

白斑を輝かせて大空を舞う姿が見られたのも束の間、巣立ち後半月ほどで弱ってうずくまっていたところを保護されましたが、数日後に死んでしまいました。

映像・写真展では、この若ワシが元気だった頃の姿や、イヌワシの1年の生活を紹介します。あわせて、貴重なイヌワシの骨格標本も展示します。

【講演会】

日 時：7月26日（日）午後1時30分から
テーマ：「伊吹山の守護神 ～伊吹山のイヌワシ40年の記録～」
講 師：動物写真家 須藤 一成 氏
参加費：500円
募 集：30名（申込必要・先着順・電話にて）
場 所：資料館講座室
内 容：

伊吹地域には昔からイヌワシが生息しています。かつて山に生きる人々はイヌワシを権現様と崇め、共に暮らしてきました。この考えは現在でも大きくは変わっていません。イヌワシは自然環境の指標種として現在も大切に守られています。伊吹地域のイヌワシの営巣地を発見したのは、今から約40年前です。このつがいは、良好な営巣場所がないこと、食物不足、雛がクマに食べられる、人間による攪乱など多くの要因で若ワシを巣立たせることが難しい状況です。伊吹山のイヌワシの40年間の記録とこれまでに取り組んできた保護活動を、映像と写真を使いながら様々なエピソードを交えて話します。

幼鳥の剥製は全国的に希少



元気なころの幼鳥（須藤撮影）

死んでしまったイヌワシの幼鳥は、岩手県盛岡市の石川剥製によって、剥製として生まれ変わりました。伊吹山の豊かな生態系を物語る大切な資料として、展示公開しています。

須藤 一成（すどう かずなり）動物写真家

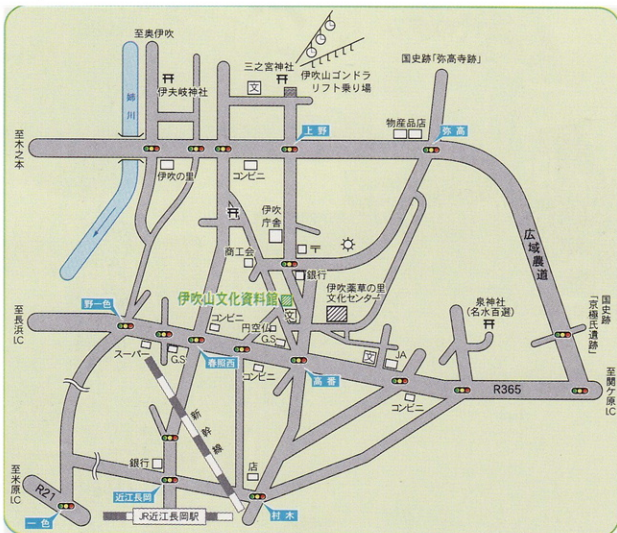
大空を悠々と飛翔するイヌワシに魅せられ、猛禽類の魅力を通して自然の素晴らしさを伝えるべく、滋賀を拠点に撮影活動が続けている。

近年は、多種多様な猛禽類が生息するアフリカでの撮影にも取り組んでいる。

『Golden Eagle イヌワシ』を平凡社より出版。主な写真集やビデオには、『伊吹山自然観察ガイド』共著（山と溪谷社）、ビデオ作品『大空を舞う森の守護神』（NHK）、『孤高のハンター イヌワシ』（滋賀県）、DVD『ブラックイーグル』『ツキノワグマ』などがある。

【同時開催】

「伊吹山麓の野鳥 一草野 昇 写真展」



【伊吹山文化資料館／交通案内】

JR・バス：東海道線近江長岡駅下車 湖国バス「伊吹登山口」行きで「ジョイいぶき」下車、徒歩8分
車：名神高速米原・関ヶ原、北陸道長浜各IC から約15分

米原市伊吹山文化資料館

Mt. Ibuki-Museum

●体験教室（要予約）

「まが玉」や「昔のくらしの体験」などを行なっています。学校や子ども会の活動にご利用ください。

こんな時、ご利用下さい

●地域のサロン

館内には、なつかしい古い道具をたくさん展示しています。展示を見ながら、むかし話に花が咲きます。出前もしますよ！

●ティサービス

古い道具を使った「回想法」にも取り組んでいます。民具の貸し出しもおこないます。

●廃校利用やボランティア活動の視察・研修

「文科省 全国廃校リニューアル50選」に滋賀県で唯一、選ばれました。市民の方による「友の会」活動も活発に行っています。

●「伊吹山登山」の事前学習にも最適！